



自分たちの思いを伝え合う参加者

ICT^{※1}の普及で私たちの暮らしは効率よく、日々便利なものとなっています。これからますます技術が進み、もっと便利な機能が開発されようとしている中、地域の課題を解決するためにICTをどのように活かせるかを考える場づくりが企画されました。

今回は、経済産業省で若手官僚プロジェクトメンバーである山本聡一^{やまもと そういち}さん、一般社団法人Code for Japan^{コードフォアジャパン}代表の関治之^{せきはるゆき}さん、NPO法人日本NPOセンター^{にっぽんぬぽせんたー}の三本裕子^{みつもと ゆうこ}さんの3名のゲストから、日本をよくするための今後の具体策を自ら考え行動するためのお話を伺いました。

ICTを生かして 地域を豊かに

官僚、個人としての 危機感

日本人には昔から、二つのモデルとして新卒採用で会社に入り、終身雇用で65歳まで働いたあとは悠々自適な生活を送るといった、幸せな人生のモデル(次ページ 図1)がありました。しかし、モデル通りの人生を送れる人は減っているのが現実です。

経済産業省の山本聡一^{やまもと そういち}さんは、こういった日本の現状に合わせて課題設定を見直し、制度設計を変えていくことが大事ではないかと提案しました。高齢者を中心に考えられたこれまでの社会保障制度から、子育て中の親、若者層の社会保障を充実できないかと考え、「高齢者1人を支えるための若者は減っていますが、発想を転換させると、子どもを支える大人は逆に増えますよね。そう考えると、地域で子どもを支えるのは楽になると僕は考えています。一人ひとりがどんなに些細なことでも何かできることがあれば、大人7人で子ども1人を支えられます。そういう発想の転換(次ページ 図2)ができれば、日本人の感覚は大きく変わり、子どもの貧困も抑えられるのではないのでしょうか」と話します。

若手官僚チームが平成29年5月に「不安な個人、立ちすくむ国家」^{※2}の資料をインターネットで公開したのは、国も国民も一緒に考え、それぞれが「できることをやっつけていこう」という気持ちになることが狙いでもありました。



山本聡一氏

※2 「不安な個人、立ちすくむ国家」
「モデルなき時代をどう前向きに生き抜くか」
「立ちすくむ国家」をWEBで検索

※1 ICT(インフォメーションアンドコミュニケーションテクノロジー)
「別名」情報通信技術：情報や通信に関連する科学技術の総称。特に、電気、電子、磁気、電磁波などの物理現象や法則を応用した機械や器具を用いて情報を保存、加工、伝送する技術のこと。
ITをコンピュータやデジタル通信などの情報技術そのもの、ICTを社会や生活への情報技術の適用や応用、といったニュアンスで区別する場合もある。

漠然とした不安を抱える国民の気持ちや国のセーフティネットの限界など、日本の危機を赤裸々に語ったこの資料はテレビ等のマスメディアにも多く取り上げられました。



ともに考え、 ともにつくる

自分たちで考えていく
地域のあり方



「住民主体」自分たちの地域は自分たちで良くしていくことが求められる今、これから日本はどうなっていくのか、私たちはどうしていけば良いのか。日本の未来について「知る」「考える」、そして「自ら行動する」ためのワークショップを開催しました。

「はさみ」みたいなもの

「一般社団法人Code for Japan」^{※3}は、データを読み解き、現状と将来の予測をみんなどで理解したり、議論だけではなくテクノロジーを活用して実際に何か作って、自分たちの生活に役に立つか試す活動をしています。「ともに考え、ともにつくる」ことを大切に、行政や市民と一緒に課題解決していくような関係性を築き、大学や企業、NPOも一緒に加わって活動する未来を見据え、ITやテクノロジーを、上手に使うことで地域の役に立って、と考えています。

Code for Japanの設立者である関治之さんは、「不安な個人、立ちすくむ国家」の資料をつつた山本さんの思いを聞いた時に、「みんな考える場をつくりましょう」と声をかけ、平成29年6月13日にワークショップを開催しました。「資料に対して文句を言うのは簡単だと思いますが、「一緒に考えましょうよ」と呼びかけ、実際に行動したいと思った人や、多くの人に情報を発信する行為が大事です。結果的には、参加者同士がつながるきっかけになったと思っています」と話します。

Code for Japanは世の中のことを何でも解決するのではなく、地域に住む

図1 「昭和の人生すごろく」のイメージ

'50年代生まれ→'80年代生まれの暮らしの変化

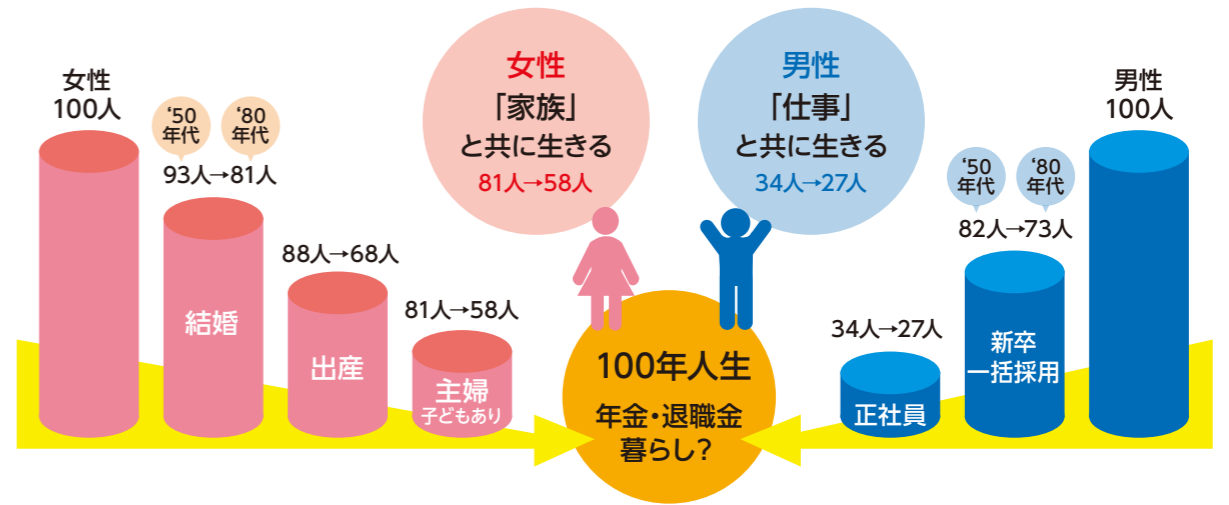
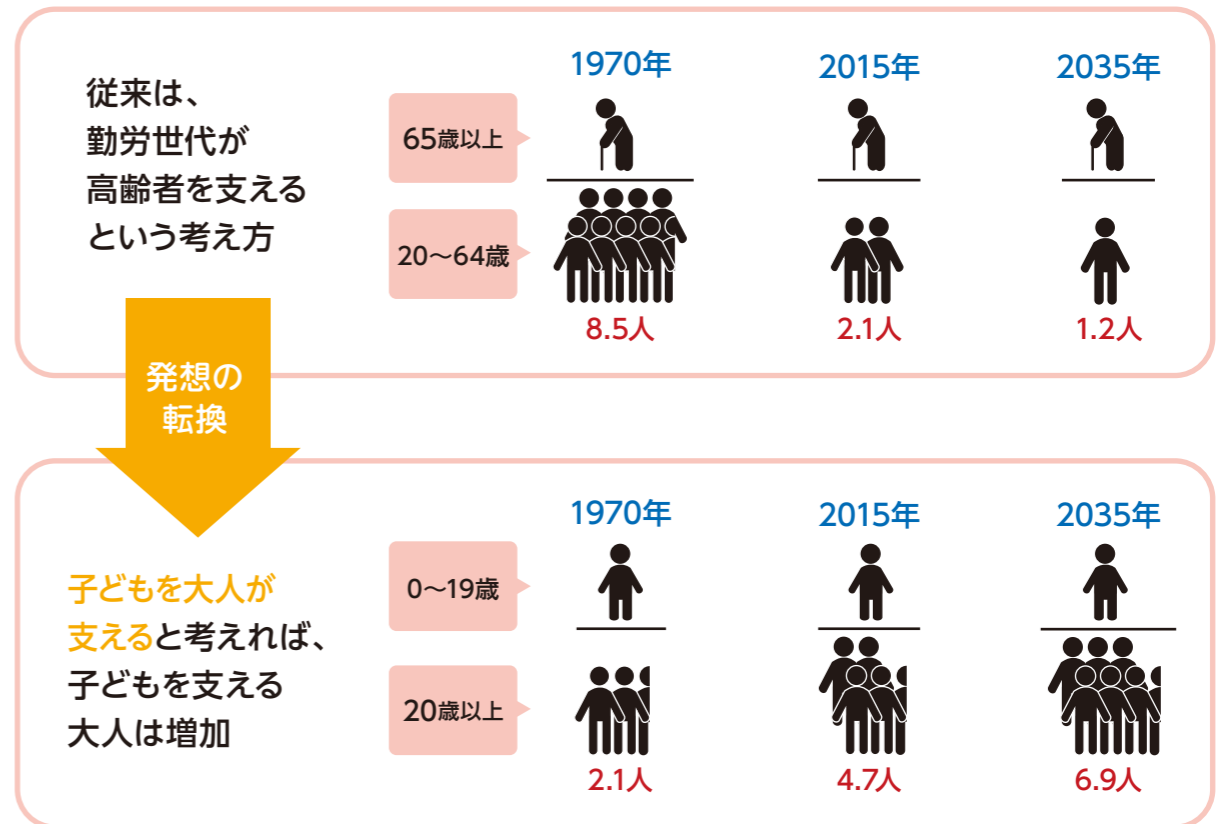


図2 少子化だからこそ、子どもの教育にもっと投資を



人たちが自分たちで地域の課題を解決するために、各地域のグループごとに企画したワークショップを開催しています。それはITだけに特化しているわけではなく、地域で顔の見える関係をつくり、人と人とのつながりを一番大切にしています。

「ITの力はツールにしか過ぎないんです。例えば『ハサミ』だと思ってください。何かこのハサミで切るものはないですか?と問われてもね。問題は何を切るかであって、切ることが目的ではないんですね。地域課題を解決していくときにハサミをツールとして使うことが有効な時は力を発揮します。使い方に合わせてはさみを選ぶように、ITも何のために使うかが大事になります。何に使えるのかわからないと、私たちが「ITを普及させたいからITを使いましょう」と言い続けても、人々は手を出しません。システムや製品の開発は専門家に任せて、皆さんはどこで使えるかを知っていればITも必要な時に安心して使えるようになります」と話し、テクノロジーの力やICTが地域の課題を全て解決するのではなく、人々が集まって、いつ、どう使うか話し合う機会をつくることを大切にしています。

※3 一般社団法人Code for Japan
市民が主体となって自分たちの街の課題を技術で解決するコミュニティ作り支援や、自治体への民間人材派遣などの事業に取り組み非営利団体。
詳しくは <http://www.code4japan.org/>



参加者の声を聴く関治之氏

官と民もともに動く

これからの日本においてICTやテクノロジーを活かすことで自分たち自身がどう暮らしていきなっていくのか、社会に自分の声を広げていくにはどうすればいいかを調査研究するためにアメリカへ渡った団体の一人であるNPOセンター^{※4}の三本さんは、目の前にある課題の解決方法を考え組織や環境基盤を整えることを目指し、全国のNPO支援者とネットワークを築いています。

三本さんは、「視察では技術者が行政の事務作業が効率的になる仕組みをつくり、行政職員が各自治体の抱える課題をITを使って解決している現場を見ました。その時に感じたのは、民間企業の技術者が開発した機能を上手に使うことができれば、行政も住民も簡単に情報を発信できるということです。アメリカではGovernment（行政）はslow（遅い）、だから私たちが解決するという考えを皆さんもついています。政治家や役所の人に『なんとかして』と声を上げる時間があったら、試しにとりあえずやってみようという前向きにチャレンジしていきます。日本でもそのような行動に対して企業や個人の技術者がサポートしていけたらいいですよ」と話し、行政と民間企業が協力し合っていくことで、組織や個人の可能性がもっと広がっていくと考えています。

世代が変わり、日本の中核世代を担う人たちもICTを使うことが当然のようになってい

地域の力×ICTの力

今回のワークショップは、参加者全員で学び、つながり、アイデアやこれから取り組むたいことを考える場となりました。

関さんは、「福祉や教育に高い関心をもつ黒部の皆さんが情報を共有でき、現場で働く人たちの負担が軽減されるようなものをつくりたいと思っています。私も地域をつなぐ架け橋になれるよう努めていきます」と話し、3名の講師と参加者は黒部のために活動したい、協力したいという同じ思いを共有でき、前向きに考え合える仲間となりました。

メンバーを集めて具体的な計画を実際に立てていきたいと意欲を示している参加者もあり、私たち社会福祉協議会もそのように協力してくれる人々とともに、これからの地域のあり方を考えていきます。また、市内におけるICTの普及状況を把握するアンケート調査（次ページ参照）を行い、見守り活動や地域の課題解決にICTの力の活用を検討していきます。

皆さんの思いやアイデアを出し合って、黒部の未来につながるアクションを起こしていきましょう！

いきますが、知らない物は使いたくないと感じる人や、利用したくてもICTやテクノロジーを利用できない人たちもいます。三本さんは、そういった人々に寄り添える支援者や組織、NPOが増えていくようにサポートし、情報や社会から孤立する人が出ないように、取り組みを行っています。

※4 日本NPOセンターとは、民間非営利セクターに関する基盤的組織として、NPOの社会的基盤の強化を図り、市民社会づくりの共同責任者としての企業や行政との新しいパートナーシップの確率を目指す組織のこと
詳しくは <http://www.jnpoc.ne.jp/>

※5 会議などで飛び交う、いろんな人の「議論」を絵や図などのグラフィックに「可視化」して記録すること



谷内博史氏、谷内千尋氏が描いたグラフィックレコーディング^{※5}



H29.3.29「立ちすくむ国家WS in ころべ」
～黒部から考える日本の未来～
&地域の力×ICTの力を考えるを開催しました。



ワークショップの内容をイラストでまとめるグラフィッカーの谷内千尋氏(左)と谷内博史氏(右)と参加者の方々



三本裕子氏とグラフィッカーの谷内博史氏





スマイル Vol.51

ふくしスマイル ワーカー

福祉に携わる人のお仕事拝見!

にいかわ若者サポートステーション
総括コーディネーター/
キャリア・コンサルタント/産業カウンセラー

まつい かずよ
松居 和世さん(42)

好きな事 釣りをすること



一人ひとりのペースに合わせて接しています
にいかわ若者サポートステーション nsapo.org/

「人生ってこんなに楽しいんだー」と思ってもらいたいですね。
来る方は人間関係の悩みが多いのですが、本人の人生に関わり、成長していく姿を見ることができたときにやりがいを感じます。ここ

どんな時にやりがいを感じますか？

生きづらさや働くことに悩みを抱えている15歳〜39歳までの若い人たちの職業的自立を支援しています。就労に向けての様々な講座や職場体験プログラムがあり、本人と一緒に仕事を探し、社会人としてスタートラインに立つまでのサポートをしています。

にいかわ若者サポートステーションはどんな場所ですか？

写真レポート



3月23日(金) 大布施公民館にて

傾聴ボランティア養成講座

富山国際大学の村上満氏を講師に招き、22名の参加者は2回にわたり傾聴の心得や技法を学びました。



3月20日(火) 若栗地区社会福祉協議会

民生委員・ボランティア部会の高齢者訪問

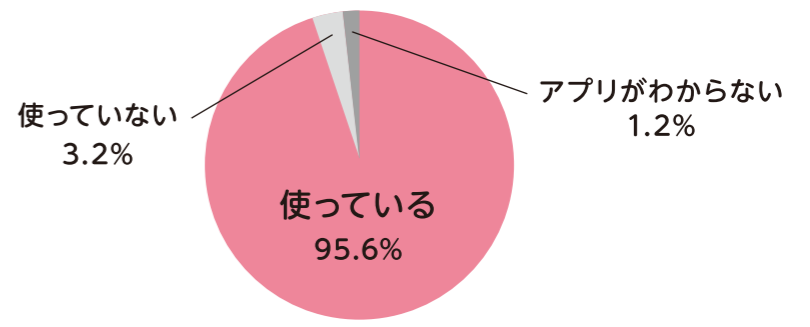
地区に住む90歳以上の方々28人に手作りおはぎを配り、お互いに元気な姿を見ることができました。

平成29年度 地域福祉分野でのICT利用についての調査研究 「黒部市におけるスマートフォン等の活用と普及率(一部抜粋)」

この調査は、市民や福祉活動に関わる支援者のスマートフォンの所有状況や活用手段、各世帯におけるIT環境の現状を調べ、地区、地域福祉分野へのICTの利活用をどの角度から取り組むことができるか、福祉関係者の事務効率の改善が図れるか等を検討することを目的とし、今回は、一般市民、民生委員児童委員、福祉活動に関わる支援者、市内高校生を対象に全924名から回答を得ることができた。

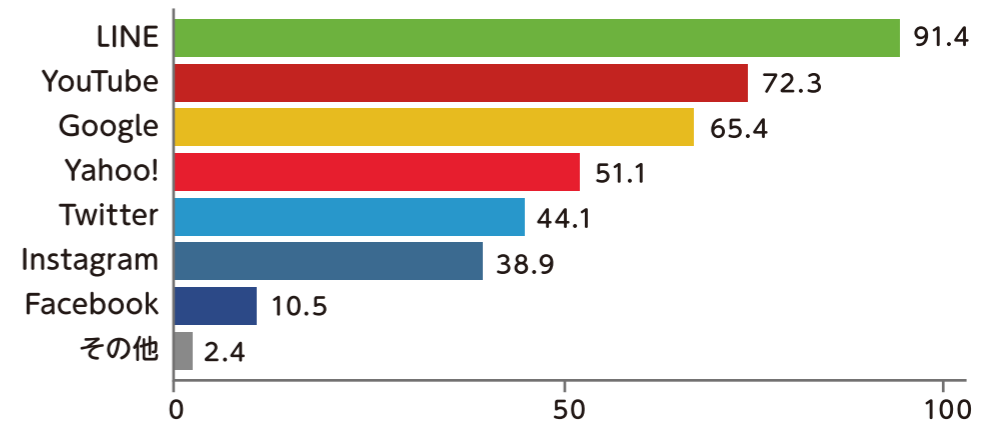
Q. アプリケーション(アプリ)を使っていますか？

回答数:740名



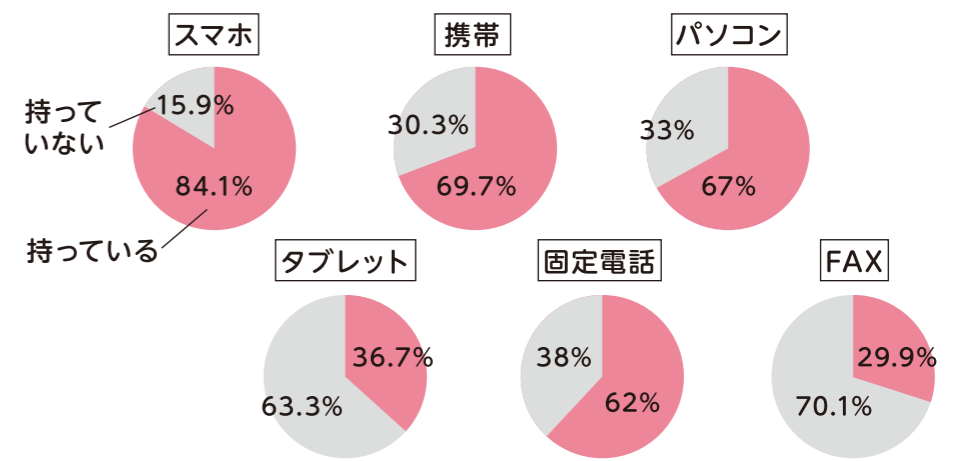
Q. どのようなアプリケーションをよく使いますか？

回答数:740名



Q. どのような電子機械を所有していますか？

回答数:924名



※全体版は黒部市社会福祉協議会のホームページに掲載しています。

民生委員児童委員と心配ごと相談

行政相談員と行政相談 予約不要

黒部市福祉センター(金屋464-1)

5月8日(火) 13:30~15:30

黒部市立中央公民館(宇奈月町浦山2100-2)

5月10日(木) 13:30~15:30

弁護士と法律相談 予約受付/5月1日より

黒部市福祉センター(金屋464-1)

5月15日(火) 13:30~15:30

同じ相談内容の場合は、
お一人様につき3回までとさせていただきます。

富山県東部生活自立支援センター

生活自立支援相談 予約受付/5月1日より

黒部市福祉センター(金屋464-1)

5月14日(月) 10:00~11:30

5月

12日(土) 北川歌謡ショー 10:30~

18日(金) 藤間流華松会 日本舞踊 10:30~

19日(土) 歌謡パラダイスふれあいショウ 10:30~

26日(土) 日本海歌謡研究会 歌と踊りの祭典 10:30~

27日(日) YKK社友会歌謡同好会サークル発表会 10:30~

休館日 毎週月曜日(7日・14日・21日・28日)

4日~6日は、
ゴールデンウィークのためお休み

6月

7日(木) こぶしカラオケ愛好会 10:30~

15日(金) フラサークルイリマフラダンス 10:30~

16日(土) 高山舞踊研究会 踊りの集い 10:30~

24日(日) #なんでもや~楽団b 10:30~

30日(土) カサブランカ愛好会 10:30~

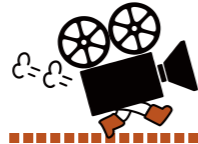
休館日 毎週月曜日(4日・11日・18日・25日)

3日・9日・10日・17日・23日は、
敬老会のため風呂のみご利用いただけます

黒部市福祉センター [利用時間] 8:30~16:30

[入浴時間] 10:00~16:00

今月の相談日



来て見てヤンバイ映画館

[開催時間] 13:30から 入場無料

5月15日
(火)

「キトキト!」

出演:石田 卓也 大竹 しのぶ

場所 音沢公民館

地域福祉
のために

黒部市社会福祉協議会に
寄付をいただきました
ありがとうございました

● 関西電力株式会社
黒部川電力所 様

今月のクラブ

囲碁・将棋クラブ

金曜日(11日・18日・25日)

元気カラオケクラブ

木曜日(10日・24日)

手芸部

木曜日(17日)

ポールウォーキング

金曜日(11日・25日)

誕生日のお祝いに
福祉センターの入浴券はいかがですか?

11枚綴り
3,000円



催し物と休館日のご案内

活動レポート1

くるベネット交流会

権利を守りながら地域で支えるために

3月4日(日)黒部市福祉センターにて、くるベネット交流会を開催し、くるベネットチーム員、民生委員児童委員、介護支援専門員約150名が集いました。法テラス魚津法律事務所 村山勇輔弁護士を講師に招き、高齢者の権利を擁護しながら地域で支え合う体制について事例を通して学びました。また地区ごとのグループに分かれて日頃の支援活動での不安や悩み等を話し合い、苦勞をねぎらいながら交流を深めることができました。



法テラス魚津法律事務所の村山勇輔弁護士



約150名が、人権について学びました

活動レポート2

ボランティア講演会

ボランティアで徳の種まきを

3月14日(水)黒部市市民会館で黒部市ボランティア連絡協議会が開かれ、金城大学の内慶瑞氏によるボランティア講演会が行われました。時代にあった活動内容を見直し、ゆつくりと自分の身の丈にあった活動を進めることがマンネリ化防止となり、お互いに楽しみながら活動する心が広まってほしいと話されました。また、障害の有無に関係なく、誰でも同じ目線で活動することが基本姿勢であり、自分の活動に自信を持って取り組んでほしいとも伝えられました。



自分らしいボランティアを薦めていました

ともに考え、
ともにつくる
自分たちで考えていく地域のあり方



三本裕子さん・山本聡一さん
関治之さん



2018
5月
Vol.146



〔編集・発行〕 社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会 平成30年5月1日発行

うなづき [参加費] 150円(入館料のみ)



介護予防通所事業
生き生き倶楽部
黒部市宇奈月老人福祉センターにて

[時間] 9:30~15:00 [対象] 65歳以上の方

日	月	火	水	木	金	土
29	30	1 自力整体	2 スポーツレク	3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日
6	7 自力整体	8 音楽教室	9	10 自力整体	11 音楽教室	12
13	14 レクリエーション	15 音楽教室	16	17 音楽教室	18 スポーツレク	19
20	21 健康体操A	22 健康講話	23	24 健康講話	25 レクリエーション	26
27	28 健康講話	29 健康体操C	30	31 健康体操B	6/1 健康講話	2

時間/10:00~11:00

※■は休館日

健康体操A 石田みどり先生 健康体操B 村田あゆみ先生
健康体操C 岡崎 明子先生 スポーツレク 健康増進課職員
自力整体 稲田 清美先生 音楽教室 畠山 悦子先生

くろべ [参加費] 300円(入館料のみ)



介護予防のための
元気はつらつ体操教室
黒部市福祉センターにて

[時間] 10:00~11:00 [対象] 65歳以上の方

日	月	火	水	木	金	土
29	30	1	2	3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日
6	7	8 自力整体	9 自力整体	10 健康体操	11 健康体操	12
13	14	15 アロマ・ヨガ	16 アロマ・ヨガ	17 アロマ・ヨガ	18 アロマ・ヨガ	19
20	21	22	23 体操	24	25 体操	26
27	28	29 体操	30	31 自力整体	6/1	2

時間/10:00~11:00

※■は休館日

健康体操 牧野 和子先生 自力整体 稲田 清美先生
アロマ・ヨガ 村田あゆみ先生 体操 小森亜希子先生

脳活 くろべ

参加者を
募集しています!

簡単な「読み」「書き」「計算」と参加者同士の交流は脳をいきいきと元気にします。認知症予防に興味がある方におすすめです。随時、体験会を行っておりますので、お気軽にお問い合わせください。

対象: 市内在住の65歳以上の
教室参加希望者及びその家族

お申し込みは 黒部市宇奈月老人福祉センター
TEL.(0765)65-1820 担当:山内まで



今月の表紙

公園で遊ぶ家族も増えてきた5月。爽やかな風を感じながら楽しそうに過ごすお母さんと子どもたち。いったいどんなお話をしているのでしょうか。新緑の中で、親子の絆が感じられる1枚となりました。

編集 高村

福祉・ボランティアに関することは

社会福祉法人 **黒部市社会福祉協議会**

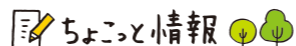
<http://www.kurobesw.com/>

本所 黒部市福祉センター内

〒938-0022 黒部市金屋464-1 TEL.(0765)54-1082(代表) FAX.(0765)52-2797
TEL.(0765)57-1089(ケアセンター・ホームヘルプセンター) Eメール kurobesw@ma.mrrr.jp

宇奈月支所・黒部市東部地域包括支援センター 黒部市宇奈月老人福祉センター内

〒938-0862 黒部市宇奈月町浦山2111 TEL.(0765)65-1165 FAX.(0765)65-9533
Eメール tobu-houkatsu@kurobesw.jp



〔黒部市の人口〕 41,477人 [65歳以上の人口] 12,736人 高齢化率 30.7% H30.3.31 現在